

特115

779

# 野草利用法

食用編

副業研究會



# 始





持115  
799

## 緒言

本書は副業研究會員苦心の結果利益あり有効なる者を實驗集合上粹せり

一本書は極めて小冊子と雖も精讀玩味すれば必ずや得る所あらん一つの得る所あらば直ちに幾何の利益を製出し得べし

大正  
1.12.8  
内空



野草  
利用  
食用  
編

一 園圃路傍等に多く生ずる草なり其嫩葉を食用に供すべし

一 ハマナ。又ツルナ。

一 海邊に自生する多年生の草なり葉を摘みこりて食用に供す

一 イヌビユ。  
路傍園圃等に自生する草なり莖葉共に柔にして食用し得

一 アカザ。  
田野に自生す嫩葉を食用に供し滋養あり又莖幹は杖ごなして魔  
除けごなり長命を保つご云ふ



一 マツナ。

海濱に自生す其嫩葉を食す

一 春蘭。

山地に自生する者にして其花を取りて鹽漬ご成し貯へ置き夏季に於ける茶の代用品ごして香氣ありて賞用せらる又之を販賣せば大に利あり

一 メウガ。

山野にも自生す其花は普通香辛料ごして食用す

一 山のイモ。

山野に自生する蔓草にして其根を掘りて食用に供す滋養分最も多し

一 山百合。

山野に自生する百合は其地下の鱗莖を食用ごす滋養分多く澱粉又百合粉を製して有利なり

一 草スギカヅラ。

海邊に自生す其地下塊を薬用ごし又砂糖漬ごなす

一 ミノ米。

多く廢田等に自生す其實は薬用ご爲す可く又糊ごなすべし

一 スギナ。又ツクシ。

我國到る所に自然に生す採つて食用に供すべし  
一 蕨。

山地に自生す春季嫩葉を食用に供す又根部より澱粉を採取し得



又老大なる葉柄は箸若くは編物の材用と成る

四

一ゼンマイ。

蕨と同じく山地に自生す此ゼンマイの根汁は驅虫劑として用へらる

一サルノヲガセ。

松蘿とも云ふ古木の枝に掛りたる絲の如し茶の代用として又食用にも供す

一チガヤ。

萱類にして其嫩芽は食すべし

一ヨメナ。

到る所に自生す浸物として食し得べし

一アカシヨウマ。

山地に自生す嫩葉を食用す

一ジユンサイ。

古き池沼等に生する宿根草なり夏季の生食として賞用せられ之をピン詰として販賣す

一草より澱粉を製し得る法

食用に供し得る雜草を臼の中にて十分搗きて而して後普通澱粉を製する法の如く清水に澄まして採取す

一チケラ。一名サウジュツ。

右の草は山野に自生し春季舊根より芽を出す此芽を摘採し食用とす又根は藥用ともなる



一ヨメナ。

田野に自生する事は前に掲出せり春季若芽を取り燻て、食用せらる

一山ゴボー。又ホクチ。

山野に自生す其若葉を採りて多く食用とす又老葉を以て發火料たるホクチを製すべし

一カラスウリ。

蔓性の草にして其果實は湯治用とじて皮膚病に効あり根より澱粉を製すべし

一ウクツ。

山野に自生する多年生の草なり其芽葉は食用とじ又葉莖は共に

薬用と成し得

一オホバコ。

到る所の土地に自生す葉は食用とじ種子は薬用に供せらる

一シロ根。

池沼等の水邊に生ず地下に白色の根を有す冬日掘りて食用す

一ゴゼンタチバナ。

平野には少けれども深山の樹陰に自生す花の落後小豆状の果實の紅熟したる者を食用す

一セリ。

多く水濕なる土地に自生する草にして其嫩葉を食用に供す

一ミツ葉。



山地及び平野にも自生する草なり春季其新葉を摘採して食す香氣ありて賞用せらる

一ウ ド。

山中等に自生す其若莖は食用となし又薬用にも供さる

一冬 葵。

其葉を食用とす

一エ ビ ツ ル。

山野に自生す蔓性の灌木様の草なり果實は食用し得べし

一ホ ド。

山野に自生する宿根蔓草なり地下の塊部を食用となし得

一ハ ハ コ 草。

山野に生す浸物として食用す

一チ ミ ナ ヘ シ。

山野に多く生する草なり其幼芽を摘み採りて水煮として食すべし

一有毒植物一覽

菌類は一般に知られたる者の外殆ど全部有毒と見做し得べし  
單子葉門中に於ける有毒植物は左の如し

テンナンシヤウ。 ウラシマ草。 ムサシアブミコンニヤク。

シタマガリ。

双子葉門植物中に於ける有毒植物左の如し

ヤマゴボ。 シキミ。 ドクウツキ。 ホーセンコ。 タケニ草



草の王。ハヘ毒草。アセミ。タバコ。ハシリトコロ。テフ  
センアサガホ。イヌホウヅキ。ハダカホ、ヅキ。アサガホ。

+

大正元年十一月二十日印刷  
大正元年十一月廿九日發行

編著者兼 副業研究會  
新潟縣中蒲原郡小合村

全縣全郡全村大字出戶  
右代表者 小田安平

新潟縣新潟市西堀前通六番町  
印刷者 村上龍三



終

